

# 資源物

## 収集・運搬作業マニュアル

(委託業者用)

# 目 次

## I. 業務の概要

- 1. はじめに ----- 1
- 2. 収集・運搬体制 ----- 2～4

## II. 作業マニュアル ----- 5

- 1. 朝の打ち合わせと準備 ----- 5
- 2. 運行前点検 ----- 5
- 3. 出発・運行 ----- 6
- 4. 現場到着 ----- 6
- 5. 収集作業 ----- 6～8
- 6. 資源物の搬出時 ----- 8～10
- 7. ごみの排出時 ----- 10
- 8. 洗車、終業点検 ----- 10
- 9. 終業時のアルコールチェック ----- 10

## III. 労働災害時の安全対策

- 交通事故発生時の対応（フローチャート） ----- 11
  - 1. 事故時の措置、事故現場での対応
    - 1) 交通事故の発生 ----- 12
    - 2) 緊急措置 ----- 12
    - 3) 事故状況の確認 ----- 12
    - 4) 事務所の対応 ----- 13
    - 5) 原因の究明と再発防止の対策の策定及び実施 -- 13
- 車両火災発生時の対応（フローチャート） ----- 14
- ＜清掃工場内での排出場所＞ ----- 15
- ＜医療機関一覧表＞＜関係機関連絡表＞ ----- 16
- 事故速報（様式1号） ----- 17
- （参考資料） 市からの貸与車両一覧表 ----- 18
- 安全な収集作業のための5か条 ----- 18

# I. 業務の概要

## 1. はじめに

一般廃棄物の処理（収集・運搬、処分）については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第4条により市町村の責務がうたわれており、また同法第6条及び第6条の2において一般廃棄物処理計画を策定し、この計画に基づいて一般廃棄物処理を行うことが定められている。

そのため、延岡市でも一般廃棄物処理基本計画を策定し、この計画に基づいて、資源物の収集・運搬を行っている。

### <参考>

○廃棄物の処理及び清掃に関する法律（抜粋）

（国及び地方公共団体の責務）

第四条 市町村は、その区域内における一般廃棄物の減量に関し住民の自主的な活動の促進を図り、及び一般廃棄物の適正な処理に必要な措置を講ずるよう努めるとともに、一般廃棄物の処理に関する事業の実施に当たっては、職員の資質の向上、施設の整備及び作業方法の改善を図る等その能率的な運営に努めなければならない。

（一般廃棄物処理計画）

第六条 市町村は、当該市町村の区域内の一般廃棄物の処理に関する計画（以下「一般廃棄物処理計画」という。）を定めなければならない。

（市町村の処理等）

第六条の二 市町村は、一般廃棄物処理計画に従って、その区域内における一般廃棄物を生活環境の保全上支障が生じないうちに収集し、これを運搬し、及び処分しなければならない。

## 2. 収集・運搬体制

### 1) 定期収集

〔延岡市（北方町・北浦町・北川町を除く）〕

種 類	実施体制	回 数	方 法	収集日、曜日
資源物 (古紙・古布)	●新聞・ダンボール：2班（4人） ●雑誌・古布：2班（4人） ●びん・缶：2班（4人） ●ペット・プラ：4班（8人） ●予備：4人 計24人	月2回	ステーション	地区別指定日 (市内を10地区に分割)
資源物 (びん・缶)		月2回		
資源物 (ペットボトル・プラスチック製容器包装)		週1回		

〔北方町〕

種 類	実施体制	回 数	方 法	収集日、曜日
資源物 (古紙・古布)	●新聞・ダンボール・雑誌・古布：1班（2人）	月2回	ステーション	地区別指定日 (北方町を6地区に分割)

〔北川町〕

種 類	実施体制	回 数	方 法	収集日、曜日
資源物 (古紙・古布)	●新聞・ダンボール・雑誌・古布：1班（2人）	月2回	ステーション	地区別指定日 (北川町を5地区に分割)

### 2) 運搬搬入

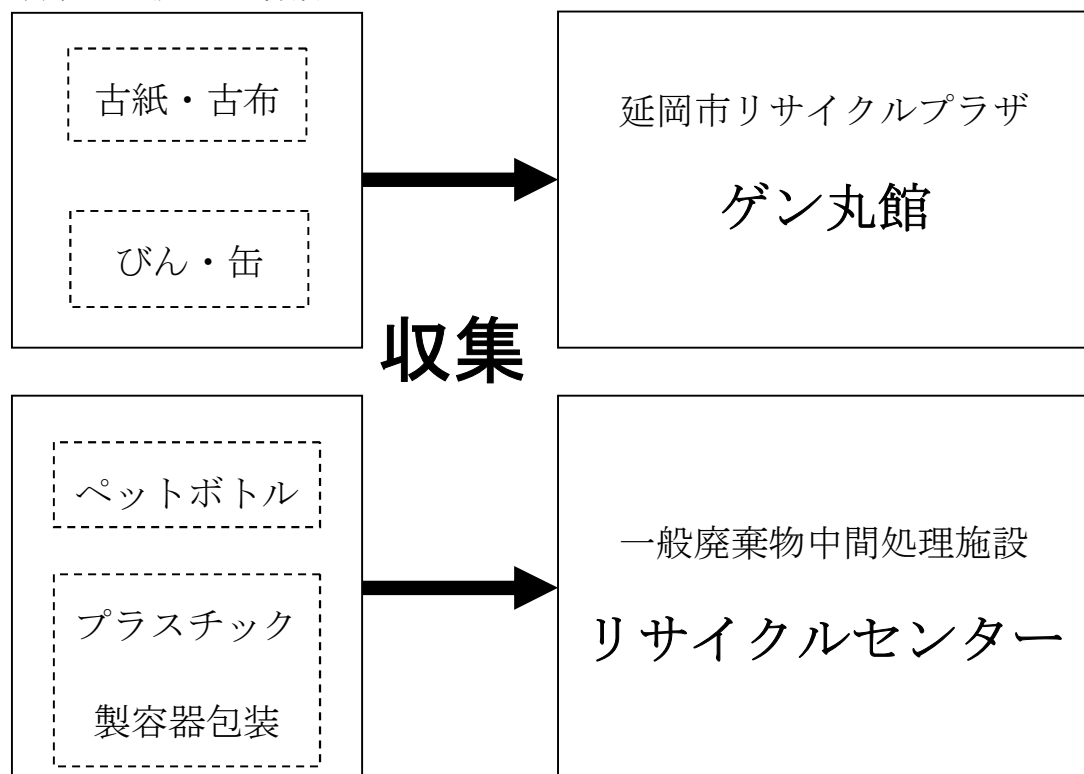
〔北浦町〕

種 類	実施体制	回 数	方 法	回収日
資源物 (古紙・古布、びん・缶)	●新聞・ダンボール・雑誌・古布、びん・缶：1班（2人）	週1回	ストックヤード	第1・3水曜日 第2・4金曜日 (1日あたり2往復を基準)

※実施体制は、最低必要人員を記載している。

## 2) 資源物中間処理施設の概要

< 中間処理施設の処理分類 >



(1) 延岡市リサイクルプラザゲン丸館の概要



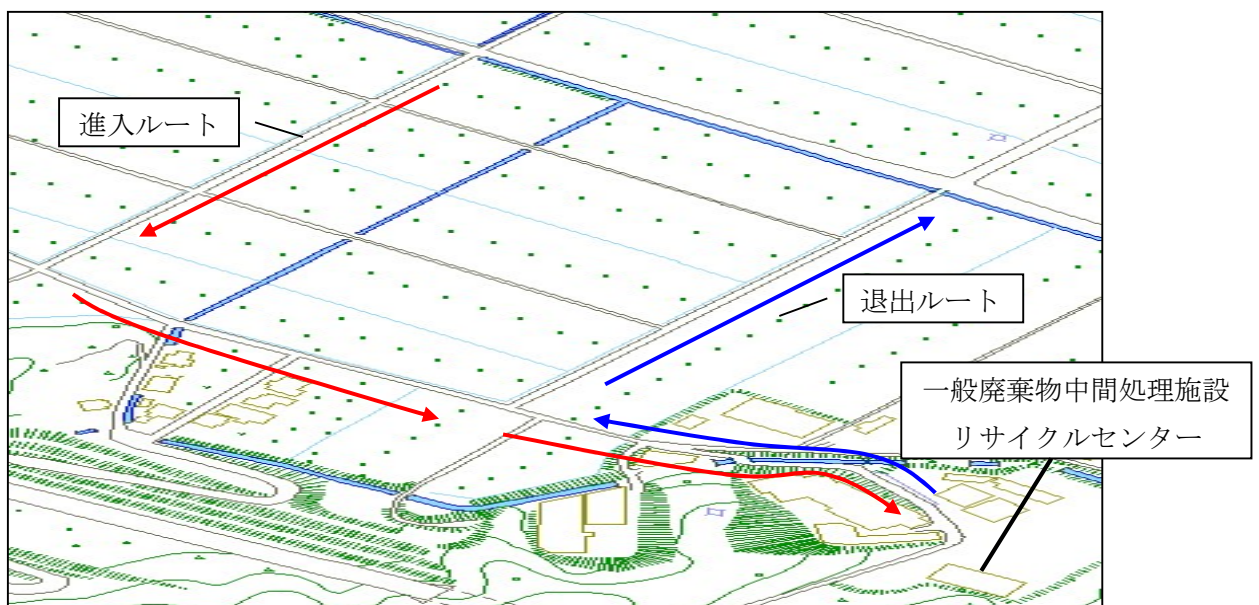
- ・ごみ減量・資源化を目的に平成 8 年 12 月 11 日に設立され、平成 9 年 3 月に試験操業を開始し、平成 9 年 4 月に本格稼動した。
- ・現在、びん・缶及び古紙・古布の中間処理（受け入れ、選別、圧縮、梱包）を行っている。

(2) 一般廃棄物中間処理施設リサイクルセンターの概要



- ・資源品目拡充（ペットボトル・プラスチック製容器包装）の実進を進めるために平成 18 年から中間処理（受け入れ、選別、圧縮、梱包）の委託を開始した。
- ・施設整備及び業務の運営は、県北環境保全連合協同組合が行っている。

<一般廃棄物中間処理施設リサイクルセンターの周辺地図>



※周辺住民との協定で進入ルートと退出ルートが決まっている。

## Ⅱ．作業マニュアル

### 1．朝の打ち合わせと準備

- 1) 各自、出勤簿に押印し、アルコールチェックを必ず行う。
- 2) 規定の作業服、手袋等の保護具を準備する。
- 3) 各班の作業内容を始業前の朝礼で確認する。

### 2．運行前点検

- 1) 塵芥車並びに平ボディー車の運行前点検を全員で行う。

#### ○点検項目

- ・ エンジンスタート（必ず運転手が行う。）
- ・ 方向指示器
- ・ 各計器類
- ・ タイヤ
- ・ 緊急停止装置（塵芥車のみ）
- ・ 連絡ブザー（塵芥車のみ）
- ・ 補助用品の確認（輪止め等）
- ・ その他、作業に必要な装備品
- ・ 救急用品
- ・ ライト（ブレーキランプ等各種）
- ・ ブレーキ（エアタンク）
- ・ クラクション
- ・ 回転板作動（塵芥車のみ）
- ・ 本マニュアル

- 2) 各施設の場内では、人・車両等に十分注意して移動する。

### 3．出発・運行

- 1) ドアの開閉は、安全を確認してから行う。  
特に開くときには、軒先や木の枝に注意する。  
また、閉めるときには、指を挟まないよう注意にする。
- 2) 運行中は各自、安全運転に努める。  
見通しの悪い道路では、左右からの車や人等の飛び出しに注意する。  
狭い道路で離合する際は、道路の幅や車両の幅・長さ等を十分考慮する。  
車両左折時・一時停止時に助手席作業員は必ず左側、及び後方確認を直接目視で行う。
- 3) 曇りや雨の日は計器類の視認性を基準に、車のライトを点灯させる。
- 4) たとえ移動距離が短い場合でも、シートベルトは、必ず着用する。

## 4. 現場到着

- 1) ごみステーションに到着したら、ハザードランプを点滅させる。
- 2) 車両が完全に停止してから、次の事に注意しながら乗り降りする。
  - (1) 作業員が助手席のドアを開けるときは、周囲の安全状況をしっかり確認する。  
また、運転手も安全確認に協力する。
  - (2) 降車時はしっかりグリップを握り、ステップに足をかけて、特に足下に注意して降りるようにする。
  - (3) 車道と歩道が路側帯で仕切られている道路では、歩道上には駐車しない。
- 3) 車両の誘導にあたっては、次の事に注意する。
  - (1) バックする際は必ず作業員が降りて誘導を行う。
  - (2) 車両の前後に立ち入らないようにする。
  - (3) 作業員は、運転手のサイドミラーからよく見える、安全な位置（車両の左後方）で誘導を行う。
  - (4) 誘導の合図は、大きな声を出し、大きな手振りで明確な合図をする。
  - (5) 運転手は窓を開ける等、作業員の合図等が確認できるように努める。



## 5. 収集作業

- 1) 収集作業にあたっては、次の事に注意する。
  - (1) 周囲の安全を確認し、注意深く作業を行う。
  - (2) 積み込む際は、腰を据えて、不安定な姿勢をさける。
  - (3) びん・缶などの重量物は二人で抱え、慎重に積み込む。
  - (4) 割れたびんなどで、手を切らないよう手袋を必ず着用する。
  - (5) 中身の見えないものは、よく確認して積み込む。
  - (6) 違反ごみがあった場合は、必ず違反ごみ未収集場所記録簿に記録し、啓発シールにマジック等で違反ごみを指摘し、袋に啓発シールを貼付する。
  - (7) 転倒の原因となる空き缶やチラシ等、並びに踏み抜きの原因となるガラスや釘等が路上に落ちている時は、危険なので必ず拾う。
  - (8) 雨が降る日は視界が悪く、路面が滑りやすくなっているので、十分注意して作業を行う。
  - (9) 風が強い日は道路上に資源物が飛散していることがあるので、周囲を十分確認して収集する。
  - (10) 坂道での収集作業時には、運転手は運転席から離れない。





やむを得ず離れる場合には、サイドブレーキを確実に引き、輪止めを使用する。

- (11) 狭い道路での収集作業時には、特に車両の側面を通行する人や自転車等に十分注意する。
- (12) 交通量の多い道路に止めて収集する場合は、後方や対向車に十分注意する。
- (13) 網が設置されているごみステーションでは、網を畳んだり、丸める等の配慮をし、歩行者や自転車等の妨げにならないようにする。
- (14) 鍵がかけてあるごみステーションでは、収集後は必ず施錠する。
- (15) ごみステーションにおいて、人的被害を及ぼす害虫（毛虫等）を発見した場合は、害虫及びその糞等に触れないように注意する。また、市に連絡し、至急駆除する等の対策を講じてもらう。
- (16) 業務従事者以外（一般市民）に、資源物の積み込み作業は絶対させない。

## 2) 塵芥車で業務にあたっては、次の事に注意する。

- (1) 積み込む際には、仕分けされた透明袋を破らないように注意する。
- (2) 回転板による巻き込み事故防止のため、資源物投入時は1度に入れすぎないようにする。

万が一、回転板等に資源物が詰まった場合（写真①）は、操作盤で回転板を止め、一人は急に回転板が作動しないように緊急停止ボタンをすぐに押せる状態にいる。（写真②）



（写真①）



（写真②）

- (3) 回転板が作動中は、回転板による巻き込み事故やびん等の破片が飛び散る危険があるので、資源物の積み込みは市民に絶対にさせない。
- (4) 積み込み中に危険及び異常を感じたら、直ちに回転板を停止させる。
- (5) 作業終了後は、テールゲートシャッターを確実に閉める。
- (6) びん・缶の収集業務にあたっては、次の事に注意する。

①びん等が割れて破片が飛び散るものは、絶対に投げ入れず、慎重に積み込む。

②びん等の破片が飛び散ることによる怪我を防止する為、操作盤の操作はテールゲート正面には立たずに、斜め後ろ側から行う。（写真③）

また、回転板を作動させるときは「回します」、「動かします」等の合図を大きな声で行う。（写真④）



（写真③）



（写真④）

- (7) ペットボトル・プラスチック製容器包装の収集にあたっては、塵芥車に積み込み過ぎると仕分けされた透明袋が荷箱内で破けて、リサイクルセンターで搬出したときに散乱し、選別、圧縮梱包処理作業の負担が大きくなるので、原則、下記の積載量は守る。

また、搬出後に、リサイクルセンターが行う仕分け作業の軽減のために、右側にペットボトル・左側にプラスチック製容器包装として積み込むように努める。

※積載量は、1台当たり原則400kg以内とする。

- 3) 平ボディー車での業務にあたっては次の事に注意する。
- (1) 荷台に上る際は、必ずステップに足をかけて上るようにする。また下りる際も必ずステップに足をかけて下りるようにする。
  - (2) 荷台に上った際は、荷台に積んでいる古紙・古布に足をとられないように足下に注意する。
  - (3) 荷台に作業員を乗せたまま、車両を移動させることは、絶対にしない。
  - (4) 積み込んだ古紙類が、運搬中に飛散しないように注意して積み込む。

## 6. 資源物の搬出時

- 1) 作業員は、車両から降りて周囲の安全を確認し、車両を誘導する。
- 2) 作業員は、運転手のサイドミラーからよく見える、安全な位置（車両の左後方）で誘導を行う。
- 3) 各施設職員の指示に従って、搬出する。
- 4) 塵芥車による搬出後の確認については、次の事に注意する。
  - (1) 確認の際は、テールゲートの下に頭を入れない。
  - (2) 作業員は搬出物が回転板等に挟まって取り除けない場合は、運転手にその旨を知らせ、安全を確認し安全バーをかけて、掻き出し棒で取り出す。
  - (3) 作業員はテールゲートロックがかかったことを確認してから乗車する。
- 5) ゲン丸館で搬出する場合は、次の事に注意する。
  - (1) 作業員は、それぞれの搬出場所に入る前に降り、搬出場所が搬出できる状況かどうかを確認する。（必要があれば、ゲン丸館職員に確認する。）
  - (2) ゲン丸館職員の指示に従って搬出する。
  - (3) ゲン丸館職員が、搬出場所で作業をしている場合は、ゲン丸館職員に十分注意して誘導する。
  - (4) 古紙・古布を搬出するにあたっては、次の事に注意する。
    - ① ゲン丸館職員の迷惑にならないように、搬出する場所には十分に注意する。



②平ボディ車のリヤゲートを開閉する際は、しっかり手で支えて開閉する。

③滑って転倒する危険があるので、古紙・古布の上には、絶対に乗らない。

④古紙・古布を搬出する際は、けがの原因になるので、足下に落とさないように注意する。  
また、周囲の作業員の足下にも落とさないように注意する。



⑤古紙・古布を搬出している最中に平ボディ車を移動させる時は、作業員に必ず声をかけて、作業員が車両から降りたのを確認する等、安全を確認してから移動させる。

⑥搬出終了後にリヤゲートを閉める際は、周囲の作業員の安全を確認してから閉める。  
その際、指を挟まないように注意する。



(5) びん・缶を搬出するにあたっては、次の事に注意する。

①搬出する際、びん等が割れて破片が飛び散る危険があるので、テールゲートの傍に近づかないように注意する。

②搬出後の確認の際も、周囲に飛び散ったびん等の破片には十分に注意する。



6) リサイクルセンターで搬出する場合は、次の事に注意する。

(1) 作業員は、リサイクルセンターの入口前で降り、リサイクルセンター内が搬出できる状況かどうかを確認する。

(2) リサイクルセンター職員の指示に従って搬出する。

(3) 資源物を搬出するにあたっては、次の事に注意する。

①搬出場所が狭いので、壁等に車輛をぶつけないように、作業員は特に注意して誘導する。



②搬出する際、作業員は塵芥車の動作（テールゲートを開ける、積荷を押し出す、テールゲートを閉める等）ごとに大きな声で安全を確認し合図する。

③搬出する際、積荷が飛び出す場合があるので、テールゲートロックを開ける際は周囲に気をつける。

④搬出後、テールゲート内に積荷が付着していた場合、安全バーを掛けて工場内にある掻き出し棒を使って取り出す。

⑤作業員は、テールゲートロックがかかったことを確認してから乗車する。  
その際、資源物がテールゲートに挟まっていないか、再確認する。



## 7. ごみの排出時

資源物としてごみステーションに出された古紙等が急な雨によって濡れ、資源物として収集出来ない場合には、可燃物として収集を行い、焼却処分とする。

その可燃物を清掃工場で排出する場合は、次の事に注意する。

(1) 作業員は、ピット内で降り、投入ピットの車止めまで車両の左後方から誘導する。

その場合、ピット内の安全を確認する。

(2) 排出後の確認の際は、車両を前へ移動させ、ごみ投入口から転落しないように気を付ける。

(3) 排出する際に、塵芥車を車止めに打ち当て、その反動でごみを排出する行為は絶対に行わない。

## 8. 洗車、終業点検

1) 車両は、水洗いし常に清潔にする。

2) 上昇したテールゲートの下には立ち入らない。

やむを得ず立ち入る時には、必ずテールゲート安全棒を使用し、運転手にテールゲートを安全棒の先端に当たる直前までゆっくりと下降させてもらう。

3) 車両の損傷の有無・燃料・潤滑油を点検し、作動油・グリスについては適切な量を補給し、異常がある場合は業務責任者へ報告し、指示を受ける。

4) 作業終了後は、サイドブレーキを確実に引いて、ドアロックをする。

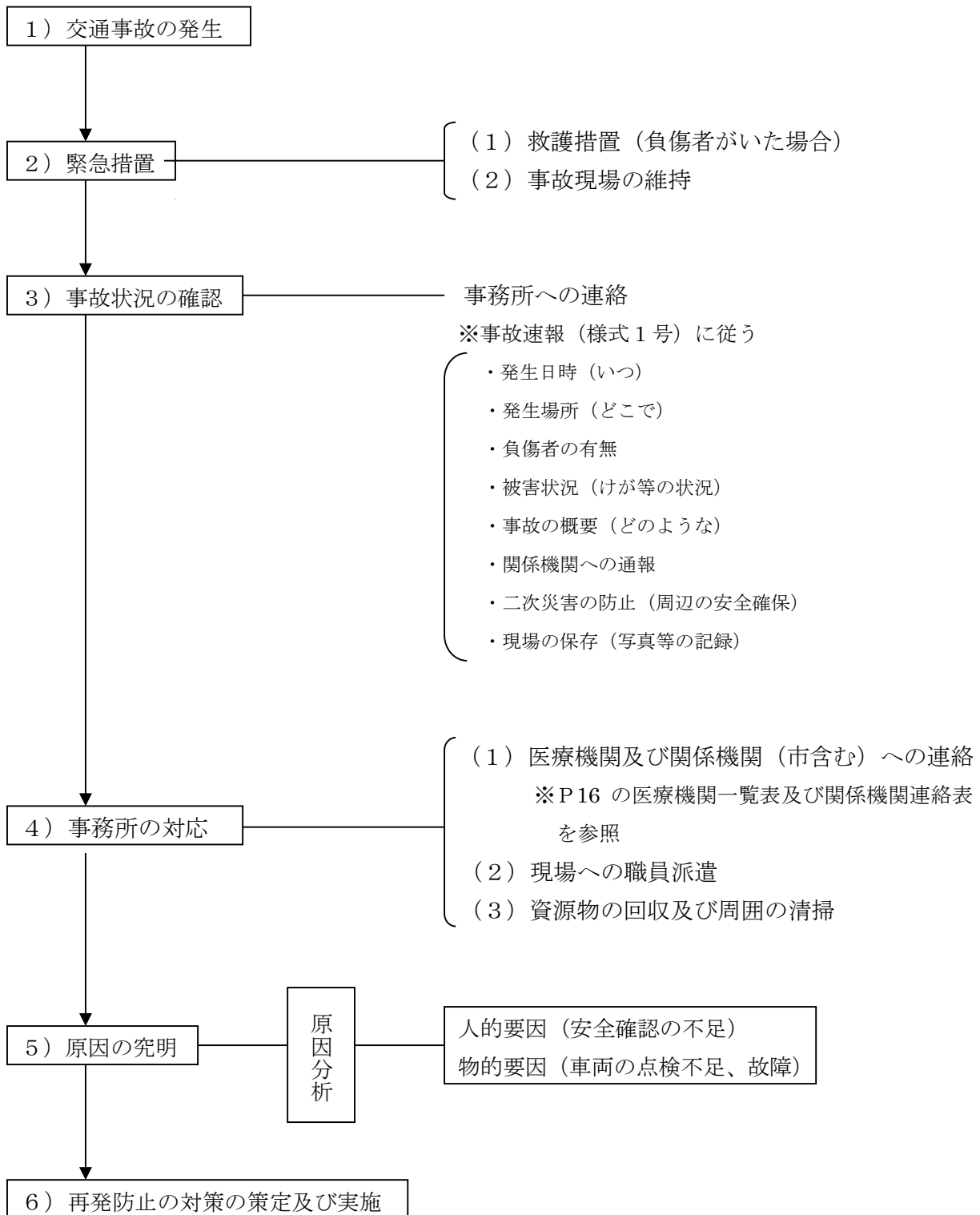
5) 車庫周辺の清掃に努める。

## 9. 終業時のアルコールチェック

1) 各自、終業時のアルコールチェックを必ず行う。

### Ⅲ. 労働災害時の安全対策

#### 交通事故発生時の対応（フローチャート）





## 1. 事故時の措置、事故現場での対応

### 1) 交通事故の発生

自分側、相手側の負傷者の確認と事故状況の確認を行う。  
(負傷者がいない場合でも必ず事故処理を行う。)

### 2) 緊急措置

#### (1) 救護措置 (負傷者がいた場合)

- ①直ちに負傷者を安全な場所に移動させ救護処置した後、119 番通報し救急車を呼ぶ。
- ②119 番通報したら、場所や負傷者の状況、人数を明確に伝える。119 番通報をした場合、消防署から警察署に連絡が入るため、警察署への連絡は後回しでもよい。

#### (2) 事故現場の維持

- ①事故現場はもちろんのこと、散乱物等も大切な証拠となるため、交通の支障にならない限り、そのままの状態で作保存しておく。
- ②二次災害防止のため、事故車両のハザード点灯及び通行車両の誘導をする。
- ③安全上の問題等で車両を移動せざるを得ない時は、相手側と事故時の車両の位置等の確認の上、道路の左端に移動させる。移動の際は、塵芥車のテールゲートシャッターを閉め、安全に十分注意する。

### 3) 事故状況の確認

事故現場から事務所へ連絡を行う。

P17 の「事故速報 (様式 1 号)」の内容に従う。

#### ※事務所の確認事項

- ・発生日時 (いつ)
- ・発生場所 (どこで)
- ・負傷者の有無
- ・被害状況 (けが等の状況)
- ・事故の概要 (どのような)
- ・関係機関への通報
- ・二次災害の防止 (周辺の安全確保)
- ・現場の保存 (写真等の記録)

#### 4) 事務所の対応

##### (1) 医療機関及び関係機関への連絡

(P16 の医療機関一覧表及び関係機関連絡表を参照)

①「事故速報 (様式 1 号)」を用い、事故現場作業従事者に、事故の状況を質問する。

(P17 の「事故速報 (様式 1 号)」を参照)

②救急車を呼ばなかった場合でも、怪我等がある場合は、負傷者の状態や負傷者に応じた医療機関に連絡する。

③物損事故の場合は、損害物件の所有者または管理者へ連絡する。

④資源対策課へ連絡する。

##### (2) 現場への職員派遣

①事故現場へ事務所から職員を複数人急行させる。

その際、デジタルカメラ・筆記用具・清掃用具 (ほうき等) を持参させる。

②事務所へ事故状況等を明確に伝える。(無線・携帯電話等)

③負傷者がいる場合

○救急車で搬送済の場合

————→事務所へ連絡し、別の職員を直行させる。

○救急車を呼ばなかった場合

————→医療機関に応援職員が搬送する。

④警察官、その他関係機関と現場検証を行う。

##### (3) 資源物の回収及び周囲清掃

現場検証後、収集車から散乱した資源物については、速やかに回収し、周囲の清掃を行う。

#### 5) 原因の究明と再発防止の対策の策定及び実施

以下について、実施し報告する。

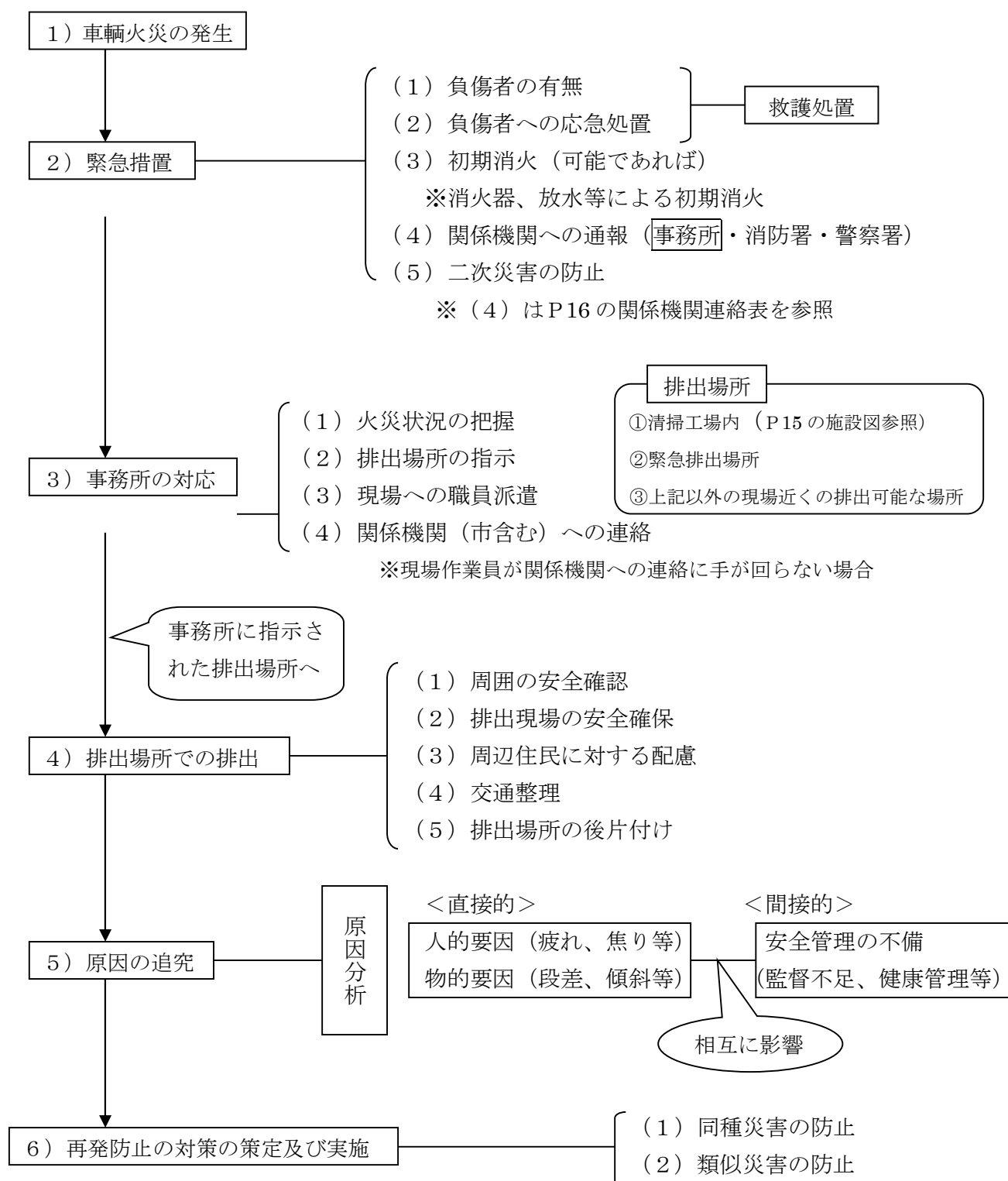
(1) 原因の分析 (人的・物的要因)

(2) 再発防止の対策

再発防止対策を策定する。

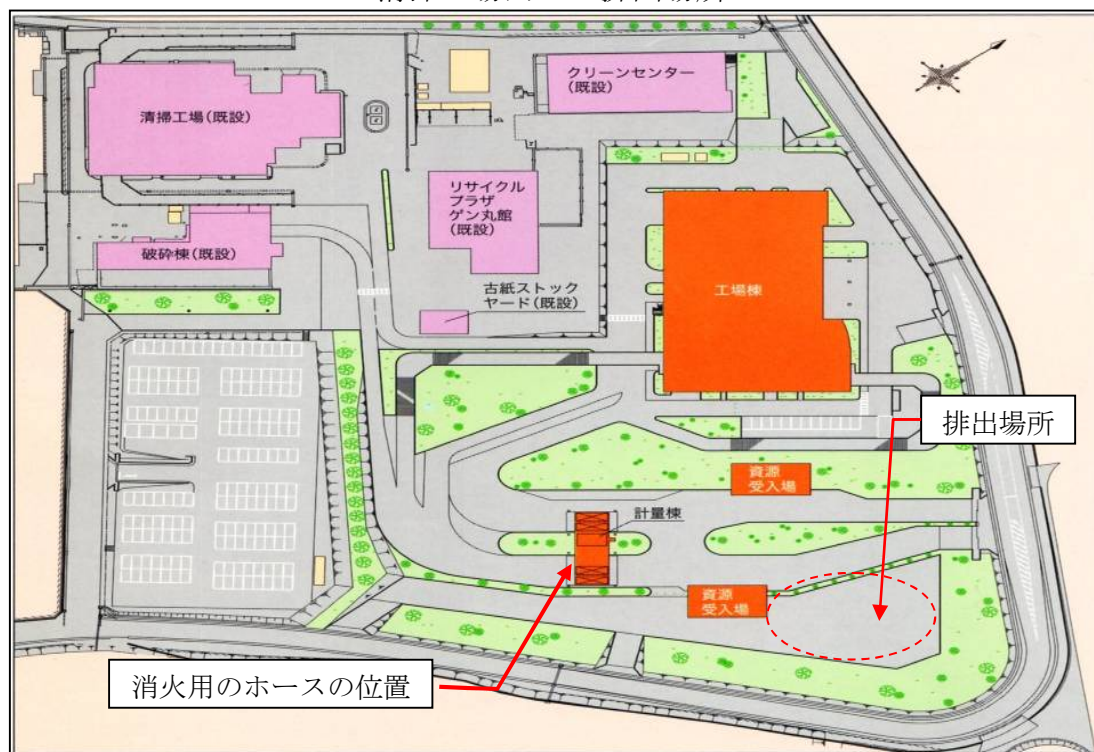
(3) 再発防止の実行 (再発防止のための研修等の開催)

## 車両火災発生時の対応（フローチャート）





<清掃工場内での排出場所>



〔医療機関一覧表〕

病院名	電話番号	診療分野	住所
県立延岡病院	32-6181	総合	延岡市新小路 2 丁目 1 番地 10
延岡市医師会病院	21-1302	内科・外科	延岡市出北 6 丁目 1621 番
岡村病院	21-5353	整形外科	延岡市平原町 1 丁目 1389 番地 1
延岡市立島浦診療所	43-0771	内科・外科	延岡市島浦町 468 番地 68
ひので整形外科リウマチ科	23-9191	整形外科	延岡市日の出町 1 丁目 5 番地 6
大貫診療所	33-1855	内科・外科	延岡市大貫町 3 丁目 754 番地 1
黒木病院	21-6381	内科・外科	延岡市北小路 14 番地 1
黒瀬病院	21-2558	内科・外科	延岡市構口町 2 丁目 125 番地 1
大崎整形外科	32-3331	整形外科	延岡市大門町 215 番地 1
甲斐整形外科医院	21-2110	整形外科・外科	延岡市瀬之口 1 丁目 4 番地 12
佐井整形外科	21-6275	整形外科	延岡市永池町 2 丁目 5 番地 4
高見整形外科クリニック	28-2828	整形外科	延岡市大貫町 2 丁目 969 番地 1
あたご整形外科	22-7575	整形外科	延岡市愛宕町 3 丁目 161 番地
延岡整形外科医院	23-1304	整形外科	延岡市北小路 10 番地 1
平野整形外科	26-9801	整形外科	延岡市大貫町 2 丁目 3029 番地 2
宮本整形外科	37-0671	整形外科	延岡市旭ヶ丘 5 丁目 9 番地 7
延岡リハビリテーション病院	21-6211	整形外科	延岡市長浜町 1 丁目 1777 番地
谷村病院	33-3024	整形外科	延岡市北小路 10 番地 2
やなざわ整形外科・内科	26-5005	整形外科	延岡市柳沢町 2 丁目 4 番地 2
押領司内科医院	21-5670	内科・外科	延岡市安賀多町 5 丁目 3 番地 2
延岡共立病院	33-3268	整形外科・外科	延岡市山月町 5 丁目 5679 番地 1
いのうえ整形外科クリニック	20-3456	整形外科	延岡市岡富町 127 番地
くもん整形外科	20-7772	整形外科	延岡市緑ヶ丘 2 丁目 8 番 11 号
石内医院	30-1885	皮膚科・外科	延岡市川島町 1644 番地 1
石井皮膚科	28-1112	皮膚科	延岡市卸本町 102 番地 10
北方医院	47-2333	内科・外科	延岡市北方町川水流卯 1412 番地 1
北浦診療所	45-3331	内科・外科	延岡市北浦町古江 2492 番地 1
もうりクリニック	24-6011	整形外科	延岡市北川町川内名 7055 番地 1

〔関係機関連絡表〕

機関名	電話番号	住所
受託者事務所		延岡市
クリーンセンター（資源対策課）	34-2626	延岡市長浜町 3 丁目 1954 番地 3
クリーンセンター（清掃工場）	33-1869	
延岡消防署	119 or 22-7108	延岡市野地町 5 丁目 2761 番地
延岡警察署	110 or 22-0110	延岡市愛宕町 3 丁目 143 番地 2
延岡保健所	33-5373	延岡市大貫町 1 丁目 2840 番地
延岡労働基準監督署	34-3331	延岡市大貫町 1 丁目 2885 番地 1

## 事故速報（第 報）

年 月 日（ ）報告

	報告責任者	役職〇〇〇〇	氏 名	〇〇 〇〇
1 発 生 日 時 (いつ)	令和 年 月 日 ( 曜日) 時 分頃			
2 発 生 場 所 (どこで)	住 所：			
3 事 故 の 概 要 (どのような)	交通事故 ・ 火災 ・ (その他の事故： )			
4 交通事故の種別 (交通事故の場合)	①人身事故 運転者： 同乗者： 対歩行者・自転車・対車両(正面衝突・側面衝突・追突・接触)			
	②物損事故 車両単独 (対物接触・駐車車両への衝突・転倒)			
5 発 生 施 設 (火災事故の場合)	①施設名：			
	②場 所：			
6 事 故 の 状 況	・進行中(拡大・縮小)・終息・( )			
7 被 害 の 状 況 (けが等の状況)	①人的被害 (あり・なし)			
	区分	市民	職員	計
	重傷者			人
	軽傷者			人
	その他			人
	②物的被害 ( )			
	③環境への影響 ( )			
8 緩 和 処 置	事故現場の対応等			
	①負傷者への対応			
	②二次災害の防止等			
	③現場の保存			
	④環境影響の緩和			
	⑤相手方の連絡先等			

## ※関係機関への連絡チェック表

連絡先	日 時	報告者	対応者	備 考
消防署				
警察署				
事務所				携行品・車検証・自賠責証書・デジタルカメラ・筆記用具
労働基準監督署				
その他( )				

※事故速報はわかる範囲で随時報告すること。

(参考資料)

市からの貸与車両一覧表(令和7年6月30日現在)							
	号 車	登 録 番 号	車 名	年 式	仕 様	走行距離(km)	
1	101(ハイブリット)	宮崎 800 さ 9222	三菱	H. 22. 3. 24	塵芥車(パック) 2t	114,740	
2	103	宮崎 800 さ 9392	三菱	H. 22. 8. 5	塵芥車(パック) 4t	256,950	
3	105	宮崎 800 さ 9394	三菱	H. 22. 8. 6	塵芥車(パック) 4t	263,503	
4	106	宮崎 800 さ 9458	三菱	H. 22. 9. 14	塵芥車(パック) 3.5t	199,985	
5	107	宮崎 800 す 622	いすゞ	H. 24. 11. 20	塵芥車(パック) 4t	238,924	
6	250	宮崎 800 す 1076	いすゞ	H. 25. 9. 17	塵芥車(プレス) 1.8t	67,137	
7	251	宮崎 800 す 1179	日野	H. 25. 11. 19	塵芥車(プレス) 4t	151,223	
8	252	宮崎 800 す 1263	UD	H. 26. 1. 27	塵芥車(パック) 4t	203,858	
9	270	宮崎 800 す 5485	いすゞ	R. 3. 11. 24	塵芥車(パック) 2.1t	47,727	
10	306	宮崎 100 さ 7975	三菱	H. 18. 3. 27	平ボディ(幌つき) 2t	216,636	
11	307	宮崎 100 さ 7976	三菱	H. 18. 3. 27	平ボディ(幌つき) 2t	171,672	
12	308	宮崎 100 さ 7977	三菱	H. 18. 3. 27	平ボディ(幌つき) 2t	208,828	
13	302	宮崎 100 す 2661	三菱	H. 23. 1. 28	平ボディ(幌つき) 2t	176,931	
14	310	宮崎 100 す 8648	三菱	H. 29. 11. 29	平ボディ(幌つき) 2t	51,297	
15	1	宮崎 480 か 6724	三菱	H. 20. 5. 28	軽トラック	185,065	

#### 安全な収集作業のための5か条

- ・安全確認の際は、ただ見るのではなく、どこに注意すべきか自分で考えて観ること。
- ・目だけを使うのではなく、車のエンジン音や人の話し声等を耳でしっかり聞き取ること。
- ・作業に慣れてきても、決して油断しないこと。
- ・万が一、労働災害が発生した場合、迅速且つ適切な対処を行うこと。
- ・職員同士で協力し合いながら安全な収集作業に努めること。

## 改 訂 履 歴

施行年月日	改訂版数	ページ 番号	改 訂 内 容
平成 29 年 6 月 9 日 令和 2 年 10 月 1 日	初版 第二版	2	令和 3 年度からの委託地域の拡大に伴い、2. 収集・運搬体制に北方町、北川町及び北浦町での体制を加えた。
令和 7 年 11 月 1 日	第三版	10 16 18	終業時のアルコールチェックの追加 医療機関一覧表の更新 市からの貸与車両一覧表の更新